

奈良市学校規模適正化検討委員会（平成24年度第3回） 会議録

1 日時 平成25年3月27日（水） 午前10時～11時20分

2 場所 奈良市役所 北棟5階 21会議室

3 出席者

【委員】 重松敬一委員、岡 毅委員、竹村健委員、畑中康宣委員、
二谷幸委員、井口和美委員、上山勝己委員、中西拓也委員
(欠席 小柳和喜雄委員、古山周太郎委員)

【市職員】 教育総務部長、教育総務部次長、教育総務部参事（教育政策課長
事務取扱）、子ども未来部参事、地域教育課長、学校教育課主幹、
保健給食課長、子ども政策課長

【事務局】 教育政策課職員

4 会議事項

- (1) 学校規模適正化の進捗状況と課題について
- (2) 各地域における適正化の手法について
- (3) その他

※全て公開で審議。(傍聴人0人)

5 配布資料

- 奈良市学校規模適正化の状況

6 議事の要旨

- 事務局が、奈良市情報公開条例の指針に基づき会議を原則公開とすること、会議録のホームページへの公開や会議録の作成のための録音、写真撮影等について了承いただきたい旨説明した。

(1) 案件

- 事務局が、案件について説明。

◆学校規模適正化の進捗状況と課題について

- 3月20日付の朝日新聞朝刊に、宇陀市にある野依小学校が4月から大宇陀小学校と統合再編するので最後の卒業式を終えたという記事が掲載されていた。旧大宇陀町にあった4つの小学校のうち、平成

22年に野依小学校以外の3校がひとつに統合再編し大宇陀小学校となっていた。今回は野依小学校が統合再編し、ひとつの小学校になるということである。宇陀市教育委員会事務局の担当者に聞くと、奈良市と同じように、各校区に準備委員会を立ち上げて統合について検討したということであった。また、統合に至ったポイントとしては、次の3つであると話された。

①登下校の通学バス — 宇陀市のバスを4台使用し、30分以内で通える。

②集団教育の経験 — 旧大宇陀町にはもともと1幼稚園、4小学校、1中学校があった。そこで、若い世代の保護者は子どもが幼稚園時代をひとつで過ごしているので、小学校もひとつでもいいのではという考えがあった。

③新しい校舎 — 大宇陀小に平成25年4月に新校舎ができる。

平成18年度から統合再編の話を進めてきたが、最初はやはり保護者も地域住民も反対の声が多かった。少しずつ話をしていくうちに統合の流れになり、その際の中心は保護者であったようだ。

- 現在は、学校規模適正化の中期計画の2年目を終えようとしている。中期計画では過小規模校を対象校として、適正化について保護者や地域に説明会を行ってきた。また、適正化の基本的な手順は原則として、①教職員説明会 ②PTA 役員説明会 ③保護者説明会 ④地域別適正化検討協議会 というように進めてきた。この地域別適正化検討協議会については興東地域のみ開催されているが、その他の地域は開催することができていない。
- 帯解小学校と精華小学校については、昨年の夏に地域・保護者説明会を実施し、両地区に検討協議会の開催していただくよう連絡をとってきた。精華地区は、統合には様々な意見があり、地域や保護者の代表の方が中心となって、これから話をまとめていただくことになっている。帯解地区は、統合することには今のところ大きな反対意見はない。ただし、幼稚園と保育園の課題もあるので、子ども政策課が計画している奈良市幼保再編実施計画（案）に基づき、幼稚園と保育園、そして小学校とうまく連携しながら統合再編の話を進めていかなければいけない。
- 興東中学校と柳生中学校については、平成25年度に大柳生小学校の改修工事を進めていくことなどを地域に伝える必要があるので、3

月 22 日に柳生中学校区の保護者説明会、26 日に第 1 回興東地域学校規模適正化検討協議会を開催し、同じ内容の説明を行ってきた。

- その際の内容は、東部地区における前期計画から今までの適正化の流れや大柳生小学校を中学校仕様に改修工事をする概要について説明した。
- 事務局が説明をした後、柳生中学校区の保護者説明会では、「バスは大柳生小学校の上まで登るのか。」「夏休みや部活動の朝練習に合わせてバスは出るのか。」「統合を前提として工事を進めるのか。それとも統合の話がなくても工事は始まるのか。」「統合した場合、小中一貫教育はどうなるのか。」などという質問や意見があった。興東地域学校規模適正化検討協議会では、「柳生地区云々ではなく、興東中学校が大柳生小に行くのかまず確認をしたい。」「平成 22 年度に市長宛に提出した要望書のとおり工事を進めてほしい。」「自転車通学をするので通学路を整備してほしい。」「梅雨の時期に廊下が湿気るので危険である。」などという意見があった。
- そこで、本日の検討していただきたいことは、次の 2 点である。① 柳生・興東地区、帯解・精華地区の適正化について ② 中期から後期計画における奈良市の学校規模適正化の方策についてである。忌憚のないご意見をいただきたい。
- 最後に幼稚園と保育園の再編について子ども政策課から現在の状況を簡単に説明する。

→[子ども政策課課長]

子ども政策課では、平成 23 年度から幼保再編検討委員会を立ち上げて、今年の 1 月に幼保再編基本計画を作成した。その中の 7 つの基本方針のうち大切なポイントが 3 つある。ひとつ目が市立幼稚園と保育所を新たな幼保連携型認定こども園に再編していくこと、ふたつ目には再編のスケジュールは国の子ども子育て関連 3 法の動向をふまえた上で実施していくこと、3 つ目にはモデル園設置や待機児童対策については、できるところから速やかに実施していくことである。これらのことを中心にして実施計画（案）を作成し、現在 3 月 29 日までパブリックコメントとして意見募集をしている。モデル園としては、都跡地域と青和地域にこども園を設置できるよう 12 月の補正予算で設計予算を組んだ。その青和幼稚園は、昨年大雨で被害があり、園舎建て替えにあたり認定こども園化を進めているところである。都跡地域と青和地域は平成 26 年度、帯解地域は平成 27 年度の開園を目指している。現在は、それぞれの地域の自治連合会や保護者に説明をしている。その中では反対意見もあるが、多く

は前向きな意見を頂いている。今後は、国の状況に関する情報と奈良市の建設について具体的なことが決まってきたら、また説明にいききたいと考えている。

● 案件について、委員が意見交換。

重松会長☞ それでは、事務局からの説明の内容を聞いて、何か質問や意見があればお願いしたい。とくに委員の皆さんが置かれているそれぞれの立場から建設的なご意見を伺いたい。

岡委員☞ 今の事務局の説明と直接は関係ないが、先日、四条畷市の小学生が学校の統合再編をめぐって自殺したことが新聞等で報道された。今までは、この検討委員会の場では子どもがどう考えているのかということがあまり話し合われてこなかったように思う。そこで、このことについて説明会などで話題にならなかったのか。

→[事務局]

3月22日と29日に行われた保護者説明会や検討協議会ではその話題は出てこなかった。

岡委員☞ 子どもが統合についてどう考えているのかということは、何らかの方法で把握しているのか。

→[事務局]

子どもたちに統合についてどのように考えているのかというようなアンケート調査は実施していない。実際に学校長ともそのような話をしてみたことがあるが、実際にアンケートをするのは難しいのではないかという意見であった。

重松会長☞ 統合した後に、統合はどうだったかというアンケートはやっているが、統合前には行っていないということだ。実際には先生方がアンケート以外の方法でそのようなことを把握していただけたらと思う。

畑中委員☞ P T A会長が、ある程度保護者の意見をまとめて言っておられるのか、会長の思いとして言っているのか、保護者の意見をまとめようとしているのかその部分を教えてほしい。

→ [教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）]

ある対象校のP T A会長は、意見をまとめようとしてくれるが、いろいろな意見があり、なかなかまとまらないようだ。

また、違う対象校のP T A会長自身は、どちらかというところと反対の思いをもっておられるが、保護者一人一人が意見を言えるようにはしてくれている。先で行われた保護者説明会では、もし統合した場合スクールバスがどうなるのかなどという質問や意見が多く出ていた。

重松会長☞ 自治会の方では、何か話を聞いているのか。

竹村委員☞ 理事会等ではあまりそのような話はない。

精華地区と帯解地区では、どちらが反対の意見を出しているのか。両方なのか。

→〔教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）〕

地域や保護者全員に聞き取ったわけではないが、説明会などで意見を聞いた限りでは、帯解地区では全体的に一緒にやっていきたいという意見が多く出ている。精華地区では、以前は地元から学校がなくなることに反対が多かったが、今は保護者の中では統合再編に賛成・反対意見がそれぞれ出ているのではないかと思える。

重松会長☞ 実際に子どもたちに教育を担当している学校の教員が、このままでは集団教育の基盤がうまく運用できないというところを訴えていただけないかということは、以前に当委員会でも共有したところである。そこで、教員がどのように地域に説明していただけるか、何か手掛かりはないだろうか。

竹村委員☞ 精華地区の声で聞いた話だが、帯解小と精華小の真ん中に学校を建てたらいいとか、なぜ帯解小までいかななくてはいけないのか、精華小はマラソンなどやっているのに帯解小に行ったらそのようなことができないのではないかなどということがあるようだ。しかし、帯解地区からは何も聞いていない。もっと教育委員会から説明等をして詰めていったらいいのではないか。主に反対しているのは、地域の高齢者の人たちだろう。その人たちに「ただ一緒になりなさい。」と言っているだけなのか、ひとつずついろいろな問題を解決するようことを言っているのかどちらなのだろうか。

→〔教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）〕

保護者だけで統合再編の話を進めることはできない。地域の思いも大切にしたいので、保護者、地域、学校関係者の代表が集まる協議会を立ち上げることにしている。そこを窓口として教育委員会は適正化の実施計画案や情報を伝えるとともに、意見をお聞きすることにしている。しかし、その三者が一体となった協議会が興東地区以外は、今開催できていない。

重松会長☞ それぞれの意見を聞いているとなかなか前に進みにくいという状況がある。ただ、かつてに比べて、スクールバスや通学路や改修工事などの物理的な話を示すことができていることは、少しずつ進んでいるということだろう。しかし、膠着状態には変わりがない。そこで、今までは協議会を開催して丁寧に行ってきたわけだが、協議会すら開催できない現状であると、この先もなかなか難しいかもしれない。何かそのことでご意見はないだろうか。

中西委員☞ 手順を踏んで進めてやられているのはよくわかったが、このように膠着状態になってしまうと、広報活動も少なくなり、当然関心や問題意

識も薄くなるだろう。私の知り合いに対象校の保護者がおり、自分の子どもが6年生になり卒業となると、もうほとんど関心がなくなると言っていた。そこで、協議会が開催できなくても、問題意識をずっともってもらうような手立てを講じないといけない。例えば、帯解・精華地区なら最短で平成26年4月に統合するという目標などをしっかりと保護者に伝えていくことが大切である。もちろん地域の方にも何らかの形で、関心を引き続きもってもらうようために提案していかなければならない。

重松会長☞ そのような意味でも協議会を立ち上げるという説明が繰り返し必要なであろう。

井口委員☞ 地域の方は地域から学校がなくなるということを思っているだろうが、親の立場から話をさせてもらうと子どもがどうなのかということを考える。やはり親の意見が大切だと思う。協議会が開催できればいいのだが、保護者を中心に話を進めていけば、もうひとつの統合対象校の保護者の気持ちもきっと変わっていくような気がする。

重松会長☞ 他の適正化の事例を見ても、最終的には保護者がゆっくりと待てないという現実を突きつけられて意見がまとまっていく場合が多かった。しかし、奈良市の場合は保護者の中に統合再編には反対という方もおられるので、なかなか難しい状況にはある。

岡委員☞ 協議会は、保護者と地域と学校代表の三者がつくりましょうということにならないとできないという方針なのか。

→ [事務局]

協議会は、自治連合会長を通じてお願いをしている。

岡委員☞ 話を聞いていると、協議会を開催しないと話が進まないようだ。協議会がなかなか開催できないのは、協議会を作ると統合再編するという既定事実になってしまうと思われているためか。

→ [事務局]

確かに協議会を行うと統合再編を推進していくと思っている方もおられるようだ。しかし、教育委員会としてはそうではなく、協議会を開いていろいろな意見を聞きながら話し合いをしていきたいということを常に説明している。

岡委員☞ 教育委員会の方針として、三者の合意を得て協議会をつくって話し合いを進めていくと説明があっただが、それはなかなか難しいと思う。先ほどの児童生徒数の今後の推移を見たが、本当にあの人数で学校教育としていいのだろうか。とくに保護者からみれば子どもの成長にとって、とても不安に思うのではないか。保護者の思いを地域に伝える場面をどんどんつくっていかねばいけない。そこで、三者が集まる協議会を教育委員会主導で作っていく必要があると思う。そうしないと進まないだろう。

重松会長☞ それぞれの意見を集約したいという意味の協議会であるが、他に意見はないか。

竹村委員☞ 幼稚園に関しては、人数が少ない場合は募集しないなどという説明を何回か聞いている。だから、学校も人数が何名以下になったら廃校にするなど厳しいことを言いながら進めないといけないと思う。一人一人の意見を聞いていると前に進めない。例えば、5人以下なら先生は一人にするなどひとつの線をきっちりと引いた方がよい。連合会の定例会でもそのような話をしにきてもらい、すると周りからも、もうひとつになったらよいのではないかという話になるだろう。

→[子ども政策課課長]

幼保再編基本計画（案）を作成し、パブリックコメントを募集した段階から自治連合会役員会・定例会、民生児童委員会長会に出席して報告してきた。このように情報提供はこれからも常に行っていきたいと考えている。

重松会長☞ 幼保再編に関しては、多少強引かなと思われるかもしれないが、そこまでしないと動かないというところはある。

竹村委員☞ 幼保再編の場合は、実施計画の年次まで示し、人数が何人までというようにしている。そうなってくると、皆がその気になってくると思う。そこまでしないと動かないのではないか。

二谷委員☞ 子どもたちへの影響を考えると、早く適正化を進めないといけないと思う。そのような点を保護者は感じていると思うが、地域の方が強いとそれがなかなか出せないのではないか。だから、子どもたちへの影響をもっと説明してもらい、未就園児など小さな子どもをもつ保護者にも話をしてもらって危機感をもってもらうことが大切だと思う。そのようなところから地域の方を動かすようにして、協議会等を進めてほしい。やはり子どものことを第一に考えてほしいと思う。

重松会長☞ 複式学級の加配は、まだやっているのか。

→[事務局]

複式学級の加配は、昨年度に引き続き今年度も実施している。

重松会長☞ 現在は膠着状態という感じだが、委員の皆さんのご意見を伺っていると、無理にでも協議会を立ち上げて、できる限り頻度を多くし、教育委員会が説明を行うことが必要である。たしかに少人数のよさはあるが、これからの時代に世界で活躍できる力をつけるためには、やはり集団教育が必要ではないか。この検討委員会としても、もう少しテンポを早めていくということで委員の意見をまとめさせていただきたい。

→[子ども未来部参事]

幼稚園や保育園は通学区域がないため、小学校や中学校とは違う特殊性をもっていると思う。協議会はとても丁寧な手法だが、一方で時間がかか

る。また、年度ごとに委員のメンバーが替わるので、また初めから説明するなど同じ話の説明の繰り返しになり、なかなか進捗しない状況となっている。そこで、幼保再編については、協議会ではなく説明会を多く行い、その都度理解を深めていただくように考えている。概ね了解が得られたと判断したところで前に進んでいくことにし、その中で課題となっていることに関しては個別に対応するようにしていきたい。小中学校の適正化の後期計画においては、今までのように協議会を開いて進めていくのか、幼保再編のように説明会を中心に進めていくのか、それらの手法についても今後の検討材料のひとつではないかと思う。次回にでも、その手法についてご検討いただきたい。

重松会長☞ 学校の先生方がどれだけ保護者や地域に説明できるかが大切である。4月以降にもこの検討委員会の話し合われたことも説明してもらいぜひ理解した上で進めていってほしい。

- 教育総務部参事（教育政策課長事務取扱）が、本日のまとめと挨拶を行った。

☞ 昨日、興東地域で検討協議会が開催されたが、今までの適正化の流れを委員全員で共有することができたことがとてもよかったように思う。そういう意味で、保護者も地域も学校も代表者が集まって意思統一できた。統合再編が動き出すときは、急に動き出すこともある。

あと1年間中期計画が残っているが、後期計画に向けて適正化の手法についてもこれからご検討いただきたい。